

第6章 標準原価計算

標準原価計算—原価を低く抑えるためにあらかじめ算定した目標となる原価で原価計算を行う方法。(標準原価⇔実際原価)

※標準原価(目標となる原価)と実際原価(実際にかかった原価)を比較分析することで無駄なコストなどを改善することができる。

「標準」=「予定、目標」「これくらいの金額で作れるはずだという金額」

標準原価計算の手順

- ① 原価標準の設定
- ② 標準原価を計算する。
- ③ 実際原価を計算する。
- ④ 原価差異(=②と③の差)を分析する。
- ⑤ 帳簿へ記入する。(パーシャル・プランとシングル・プランの2つの方法がある)

(1) 原価標準

原価標準—製品1個あたりの目標となる原価。原価標準カードにまとめられる。

原価標準カード

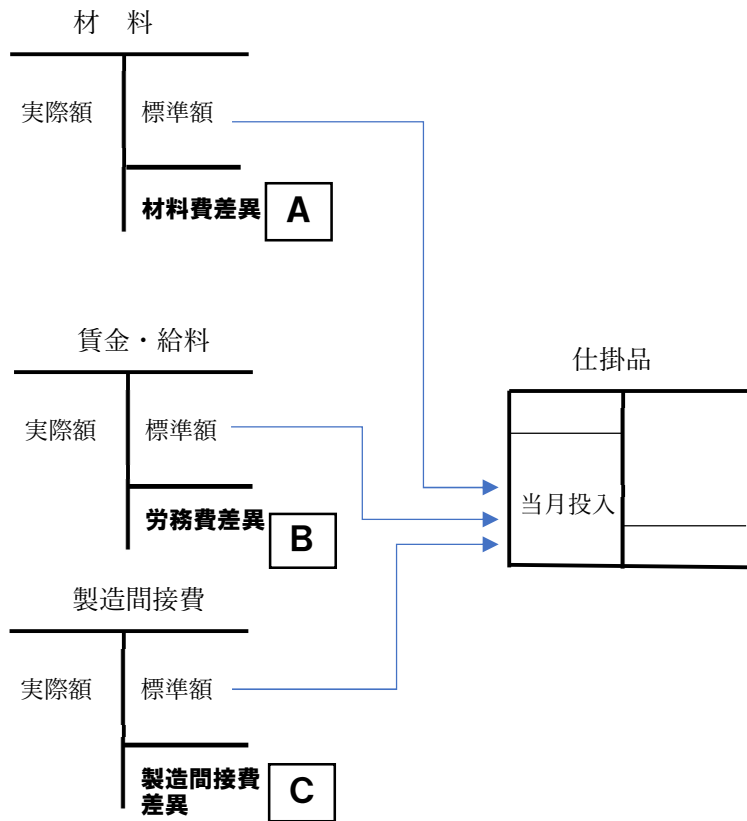
○×製品標準原価カード			
標準直接材料費	標準価格 × 標準消費量		
	@300円 × 0.5 kg	=	150円
標準直接労務費	標準賃率 × 標準作業時間		
	@1000円 × 0.6時間	=	600円
標準製造間接費	標準配賦率 × 標準作業時間		
	@200円 × 0.6時間	=	120円
製品1個あたりの標準原価		<u>870円</u>	→ 原価標準

(2) 標準原価の計算

標準原価カードから得られた情報によって、標準原価を計算する。

(3) 原価差異の分析

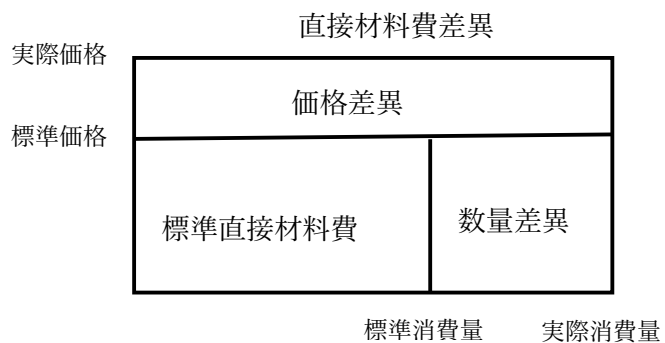
標準原価計算は「直接材料費」「直接労務費」「製造間接費」の3項目で計算している。



標準原価と実際原価の差異を直接材料費差異、直接労務費差異、製造間接費差異の3つに分け、さらにその中の差異を分析していく。

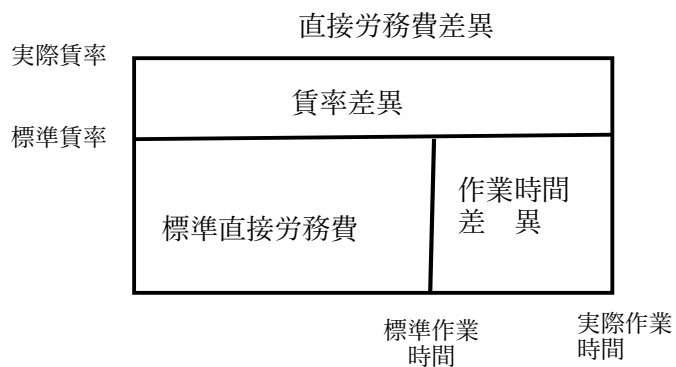
(ア) 直接材料費差異 (A の部分)

価格面の差異と消費量面の差異に分けて分析することができる。



(イ) 直接労務費差異 (B の部分)

直接労務費は賃率面の差異（単価の差異）と作業時間面の差異に分けて分析することができる



(問題)

次の資料に基づいて、①当月直接材料費の差異分析、②当月直接労務費の差異分析を行いなさい。各差異については有利差異か不利差異かを答えなさい。

1 製品Yの原価標準

Y製品標準原価カード		
標準直接材料費	標準価格 × 標準消費量	
	@400円 × 3kg	= 1,200円
標準直接労務費	標準賃率 × 標準作業時間	
	@1000円 × 2時間	= 2,000円
標準製造間接費	標準配賦率 × 標準作業時間	
	@200円 × 2時間	= 400円
製品1個あたりの標準原価		<u>3,600円</u>

- 2 当月の実際直接材料費 @410円 × 14,000kg
- 3 当月の実際直接労務費 @1030円 × 9,000時間
- 4 当月の生産データ
 - 月初仕掛品 500個 (50%)
 - 当月完成品 4,400個
 - 月末仕掛品 300個 (50%)

(解答)

仕掛品

材料 500個 労務・間接 250個	材料 4,400個 労務・間接 4,400個
材料 4,200個 労務・間接 4,300個	材料 300個 労務・間接 150個

直接材料費差異

実際 410 円 標準 400 円	価格差異 140,000 円 (不利)		
	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; text-align: center;">標準直接材料費</td> <td style="width: 50%; text-align: center;"> 数量差異 560,000 円 (不利) </td> </tr> </table>	標準直接材料費	数量差異 560,000 円 (不利)
標準直接材料費	数量差異 560,000 円 (不利)		
	12,600 kg = 3 kg × 4,200 個 実際 14,000 kg		

直接労務費差異

実際 1030 円 標準 1000 円	賃率差異 270,000 円 (不利)		
	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; text-align: center;">標準直接材料費</td> <td style="width: 50%; text-align: center;"> 時間差異 400,000 円 (不利) </td> </tr> </table>	標準直接材料費	時間差異 400,000 円 (不利)
標準直接材料費	時間差異 400,000 円 (不利)		
	8,600 時間 = 2 H × 4,300 個 実際 9,000 時間		